

（ 令 2 . 1 0 . 7
実 1 - 3 ）

中小・小規模事業者における 帳簿の重要性と電子化に向けた課題

2020年10月7日
日本商工会議所

今般のコロナ禍で顕在化した事業者の帳簿の課題

①

- わが国では、正確な記帳が自社の経営状況の把握（資金繰り等）に不可欠との考えから、税理士、商工会議所等において、積極的な記帳指導が行われてきた。
 - 戦後制定された「青色申告制度」がわが国の帳簿の普及に大きく貢献
- 一方、コロナ対応のための資金繰り支援（融資、助成金等）において、前年同月比で売上減少が分かる帳簿が必要とされたが、帳簿の未整備等により申請困難な事業者からの相談が多く寄せられた
 - 税理士の関与がなく、商工会議所等の記帳指導も受けていない小規模事業者で、「税務申告のための帳簿」にとどまる事業者が多い
 - 月次決算など「経営状況を把握できる帳簿」の重要性が改めて浮き彫りに。

雇用的自営業者（フリーランス）の増加

②

- 近年「伝統的自営業」が減少する一方で、「雇用的自営等」が増加。
→ 「フリーランス」と言われる事業者が増加している可能性。

【自営業主（雇人なし）数および構成比の推移】

